

会 議 録

1 会議名

平成29年度第3回牧区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 地区懇談会への参加について（公開）
- (2) 視察研修の内容検討について（公開）
- (3) 行政資料の提供について（公開）

3 開催日時

平成29年5月23日（火）午後6時30分から午後7時40分まで

4 開催場所

牧区総合事務所3階 301会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名（敬称略）

- ・委員：丸山 進（会長）、飯田秀治、折笠弘志、金井貞子、佐藤祐子、清水薫、
中川よしえ、渡辺喜一
- ・事務局：牧区総合事務所 高橋所長、橋詰次長、宮腰G長、綿貫班長、風間主任

8 発言の内容（要旨）

【橋詰次長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【丸山 進会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：折笠弘志委員に依頼

【丸山 進会長】

協議事項（1）地区懇談会への参加について、事務局に説明を求める

【綿貫班長】

資料により説明

【丸山 進会長】

質疑を求める。

【丸山 進会長】

あいさつでも申し上げたとおり、この地区懇談会で自主審議事項などが見いだされるのではないかと考えている。ついては、委員の皆さんからもできる限り出席いただき、皆さんの意見を委員の立場でよく聞いていただきたいと考えている。出席の内容・方法についてご意見をいただきたい。それぞれの出身の地区に優先的に出ていただく方法をとるか、それとも他の地区の皆さんの考え方を聴いてくるか。一人何回でも出ていただいてもよいが、私の考えは最低2回以上の出席をお願いしたいと考えている。1会場に偏らないように均等に割り振りをしたいと思う。

【清水 薫委員】

月曜日と木曜日が都合よい。

【丸山 進会長】

都合の悪い日だけお聞きし、皆さんの出身地区を中心に、私の方で調整させていただくように一任していただくことでよいか。

【飯田 秀治委員】

私は岩神の出身なので、当然地域住民として出席するつもりでいるが、他の2会場ではだめか。

【丸山 進会長】

それは構わない。地元では発言しにくいなどの意見があれば、お知らせいただきたい。私の方で割振り、明日には事務局経由で通知させていただく。地区懇談会は行政が主催となって私たちが便乗させていただくものなので、よろしくお願ひしたい。

【丸山 進会長】

協議事項（2）視察研修の内容検討について、事務局に説明を求める

【綿貫班長】

資料により説明

【丸山 進会長】

漠然とどうするかとお聞きしても、なかなか意見が出ないのではないかとことから、事務局で案を作り、たたき台として出させていただいた。これに限らず、他に希望等あれば出していただきたい。視察研修日は7月25日の予定だったが、バスの手配の関係上、7月27日（木）に変更となり、これで決定とする。先方との調整もあることから、本日中に第1案、第2案まで決めていただければ段取りしやすいと思っている。

【渡辺 喜一委員】

ざっと見ると、どこも行ってみたいと思うが、1つ選ぶとなると地域振興の2番目にある十日町市松之山がよいと個人的には思っている。

【中川 よしえ委員】

私は牧地区内の危険か所を見て回るのもいいと思った。

【清水 薫委員】

一番関心があるのは空き家対策である。最近、上越市も妙高市も盛んにネットで配信しているようだが、平成27年に研修会に参加された方から、どんなような状況かお聞きしたい。

【丸山 進会長】

長野県へ抜ける途中に、女性の方が経営するNPO法人が立ち上げて、空き家の紹介や地域の皆さんの公民館的、拠り所的な場所を提供するというので、かなり中も改装されて、空き家対策の一環としてやっておられた。

【清水 薫委員】

特に組織立って何かするのではなく、それを利用するという事なのか。

【丸山 進会長】

住まいは別にあり、カフェやそこで限られるような催し物など、そのような活動の場を提供しているとのことだった。奉仕ではなく、若干、利用料金などいただいているのだと思う。

【中川 よしえ委員】

確か他の空き家も斡旋していたと思う。飯山市は意外と空き家がふさがっているとお聞きしたと記憶している。

【丸山 進会長】

その方も片手間でなく、専門で取り組んでいた。

【中川 よしえ委員】

古民家の改造後の紹介や、移住者も何人かいるとお聞きした。

【佐藤 祐子委員】

十日町市池谷集落へ移住して来た人に、子どもが生まれたときの繋がりなどが、新聞でも記事になったりしている。私は山古志の地震の後も行っていないので、どちらかを見ることのできれば良いと思う。

【金井 貞子委員】

柏崎刈羽原子力発電所か、高田自衛隊に行ってみたいと思っている。

【折笠 弘志委員】

十日町池谷集落の高齢者の頑張っている地区に行ってみたい。

【飯田 秀治委員】

私も池谷集落と、それから高田地域協議会でも問題になった高田公園オーレンプラザ、新水族博物館も議会でも随分問題になったので関心がある。

【丸山 進会長】

今、ひととおり皆さんから意見をいただいたが、4人の方から十日町市の方という意見があった。後はお一人ずつそれぞれ出た。全員の皆さん方の意見に沿うことはできないと思うが、第1案として希望人数の多い十日町市池谷集落でよろしいか。

—複数委員から、はいとの声—

【丸山 進会長】

第2案として、私自身も地元の危険か所、あるいは避難場所等々、地区ごとの実態を知ることいいのかなという気がしている。また、飯田委員が言われた高田公園オーレンプラザ、あるいはクリーンセンター等々の施設にも行ってみたいと思うが、ただ、我々の立場としてここを研修先としても、それを参考にしてどうするという部分ではない。委員の立場から考えた場合は、地元の危険か所を知り、自分たちが住む地域がどのような所で、もし土石流になったらどこへ避難するのか、そのような足元を見るのも1つの機会ではないかと思っている。あまり近場というのは研修の目的と少し違う気もするが、一つ取り組んで行きたいと思っている。

【清水 薫委員】

私も防災に関することは必要だと思っている。私ども宮口と水科にある、ため池用水の耐震調査を行ったところ、最低ランクだった。改良か壊すかを選択し、用水がほぼ完備されたため池は必要ないと判断し、今年、7月頃に国の資金で、ため池を壊すことになった。また、耐震で問題があることに加え、下の方が水漏れしているため、大雨で崩れた場合、下に民家があり、非常に災害の危険性が高いことから壊すという選択をした。このようなことから、防災に関することも必要だと思う。

【丸山 進会長】

集落の上にあるため池は、地震があった場合一番危ない。総合事務所の産業建設グループの方で、ため池のチェックをしているが、我々も地元の土地のことを知っておくべきだと思うので、第2案はそれにすることでよいか。そのために、どこにどんなため池や川があるのか、事前に資料を準備する必要がある。

【中川 よしえ委員】

逆にこれをきっかけに資料を作ってもらいたいと思う。

【丸山 進会長】

総合事務所で、ため池等の設置場所や危険度合まで調べてあると思う。

【事務局】

職員も毎年異動があるため、地域の実情を把握するために、ここ2年ほど、過去に災害のあった場所をデータベースにして、そこを職員皆で回るという取り組みをしている。そういった資料を基に、もう少しピックアップし、今のため池などを合体させながらコースを作っていくことは可能ではないかと思われる。

【丸山 進会長】

それでは、第1案がだめになった場合、第2案で対応することとし、今のような方向で資料を作りながら、巡回するというところで決定させていただきたいと思う。

【渡辺 喜一委員】

例えば、秋にもう1回組み入れるのは不可能か。区内であればマイクロバスがなくても乗り合わせて、半日くらいで回ることができる。

【丸山 進会長】

それは可能だと思う。視察研修とは別に、どうしてもやはり知っておきたいということになれば、年度内に改めて機会を作っていきたいと思う。そのためにはまた皆さんに審議していただきながら、何月のいつ頃がいいのか進めていきたいと思う。

【佐藤 祐子委員】

今の災害に関係なく私事ではあるが、糸魚川家の大火事の日、自宅上の棚広用水が大風で木や草が詰まり、雪が溶けたことで水が溢れ、土石流となった。緊急措置をしていただいたおかげで、それほど大きな被害にはならなかったが、次に県道まで土砂が落ちたりした。今春の農繁期には、田植えの水が必要な時に用水が壊れたままではいけないということで、緊急に水を通していただいた。何百年も経っている用水だが、そのような災害が起きるとは思っていなかったのも、それが道路であれ河川であれ農地であれ、本当にどこにどんなことが潜んでいるかわからないと、やはりみんなが把握しておくことが必要だと、自分の目の前で起きたことで改めて感じた。渡辺委員がおっしゃるとおり、別な時期にでも、みんなで見て回るのもよい研修になると思う。

【丸山 進会長】

第1案がだめになった場合、年内にそのような機会を作っていきたいと思っている。

では第1案は十日町、第2案は地元の危険か所とし、第2案にならなかった場合は、後日改めて検討することとする。

【丸山 進会長】

協議事項（3）行政資料の提供について、事務局に説明を求める

【高橋所長】

資料ナンバー3の人口世帯に関する基礎データ、牧区の概況資料をご覧いただきたい。これは、5月に上越市創造行政研究所から総合事務所に届いたばかりの資料である。データ集の基礎となっているのは2015年の国勢調査であり、直近のデータを基に作成されていることをまずご理解いただきたい。

2ページをお開きいただきたい。1番の人口、図の1は総人口の推移、下の折れ線グラフが牧区の人口である。昭和40年には6,728人であった人口が平成27年度には2,001人まで減少している。図2はそれを基に増減率の比較をし、全28区の増減率を示したもので、牧は70%の減少率というような形になっているところである。

3 ページには年齢別の人口の推移として、1985年から2015年の30年間の推移を見ていただける。2015年は934人が65歳以上の人口、いわゆる高齢化率で46.9%である。図4が他の28区との比較ができる図であり、牧区は四角で囲ってあるが、高齢化率は牧・安塚・大島区、ほぼ同様の割合であることが見て取れると思う。

4 ページは年齢別の人口であり、人口ピラミッドという形で示しているもの。それぞれの年齢、5歳刻みごとの人口をだしてあり、点線で囲ってある部分は上越市の割合の平均の割合を落とし込んでいる。例えば牧区のグラフが中に入っているものは上越市の平均よりも少ない。若年層は点線の枠の中に入り込んでしまっているが、逆に年齢が上がると点線からはみだしていることから、いかに高齢化が進んでいるかが見て取れると思う。次は人口の増減で、図6では2010年から2015年の5年間の動きを見ている。0歳から4歳は5年前と比較しているので、0歳から4歳は新しく生まれたという形になると思う。一番減っているのは15歳から19歳、20歳から24歳であり、牧から転出する数が多いということになる。高齢になると75歳以上は亡くなる方が多くなるため、減少数が急激に多くなっている。

5 ページの上の方には、転入転出先別に見た人口増減、いわゆる社会増減である。出生と死亡は自然増減と言われているが、これは社会的要因で転入転出の増減をどこから入ってきてどこへ転出しているかが見て取れる。例えば、左側の合併前上越市には高田地区から5年間で37人が転入し、45人転出しているというような形になっており、社会的な現象では5年間で160人減った形になっている。旧13町村でもこれだけの動きがあり、牧内の移動も相当数あるというのが見て取れる。

図8は人口増減の比較であり、5年間の人口の増減の比較となっている。牧区は右側の方に四角で囲ってあるが、やはり出生から死亡を引いた部分の減り方が多いのがわかると思う。これも安塚・大島区と似た棒グラフになっているのが見て取れる。ちなみに、中程に諏訪区があるが担当に聞いたところ、いなほ園を抱えているため、上はいなほ園への入所者、下はいなほ園で亡くなる方がおられるため、このような棒グラフになることだった。

6 ページは将来人口の推計であり、皆さんの興味がある部分ではないかと思う。4ページの図6では2010年から2015年までの人口増減を見ていただいたが、このデータを基に図6の動きをベースに推計したもので、この図6のまま何も対策を打たなけ

れば、人口はずっと減り続けることになる。2015年が2,001人だが、2055年、40年後には424人になってしまうということであり、限りなく0に近づいていくという形になる。高齢化率も55%まで上がっている。小・中学生の人口も2015年には109人いるが、40年後には18人になってしまう、そういった恐ろしい推計になっている。7ページのシナリオには、持続可能な定住促進が実現した場合の人口推移ということで、仮定として毎年2組の30代前半の夫婦と4歳以下の子どもが転入してきた場合、6人増えるが、さらに2組の20台前半の夫婦が転入してくると4人増えて10人、毎年こんな形で増えていくと、その下の図のように、2045年くらいから下げ止まりになってくるということ、減り方が極端に減っていかなければ、ここが最低ラインとなる。減るとしても減り方が少なくなり、高齢化率も30%までになる。しかし65歳以上の人が増えてくるため、このような若い方が2組ずつ毎年増えて行けばこのような図になるという推計で、例えば毎年さらに3組というような推計もできるとのことであり、そうなるとこの棒グラフが上の方に上がり、さらに緩やかなラインになってくる。このような具体的な目標にもなるようなものが示されると、頑張ろうかなという気持ちになると個人的に思った。

小・中学生の人口も、先ほどと同様に2055年には64人まで確保できるという推計になっている。8ページからは世帯推移であり、人口と同じく今までの推移となっている。次に世帯構成の推移であり、図2ではどのような世帯構成かの動きが載せてある。最後は世帯構成の28区との比較であり、やはり世帯構成についても安塚・大島区と似たような構成割合になっている。

このようなデータを議論に活用しながら、地域振興や今後の牧区の話をしていただければよろしいのではないかと思う。

最後に、先ほどお話しした6ページ、7ページの将来人口推計については、あくまで一つの目安であり、市の公式的な見解ではないことを承知されてご覧いただきたいと思う。また、平成29年度牧区の概況も参考にしていきたい。28年度の資料を時転修正したものである。2ページには高齢者世帯806世帯のうちの311世帯が高齢者世帯という形になっており、これらをまた13区の状況や合併前上越市の状況がどうなっているか、資料を取り寄せてお示ししたいと思っている。

【丸山 進会長】

牧区の現状、未来についての資料の説明があった。この資料の見方がわからないという部分があれば、意見を出していただきたい。中には、ますます心配になってしまうような部分もあるが、何とか改善できる部分がないか、皆さんから日夜、考えていただければと思う。

次に、事務局からその他の連絡を願う。

【事務局】

今年も、市民と市長の対話集会、キャッチボールトークを実施することになった。昨年と同様に、牧区・中郷区・板倉区・三和区というエリアの対象地区を設けて、7月11日火曜日、午後6時半開会とし、今年は板倉区農村環境改善センターを会場に開催する。近くなったらご案内させていただきたいと思うし、広報上越6月15日号でも周知されるので、地域協議会委員の皆さんからも、是非、参加をお願いしたいと思う。

【丸山 進会長】

その他、委員からの意見等を求めるが無く、会議の閉会を宣言する。

9 問合せ先

牧区総合事務所総務・地域振興グループ TEL：025-533-5141（内線147）

E-mail：maki-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。